

カナダにおける障害児者へのスヌーズレンの医療・福祉実践

— Snoezelen Pool の今日的意義 —

姉 崎 弘*

カナダのトロント市にある子ども病院“Bloorview Kids Rehab”で2002年から取り組まれている Snoezelen Pool の実践を調査した。この実践は、スヌーズレンの最新の取り組みで、発達遅滞をはじめ多くの障害児者が利用していた。Snoezelen Pool は、従来の水泳指導や水中ムーブメントの考え方を一部包含しながらも、特に「本人と介護者が気持ちを共有し合い」、深いリラクゼーションの体験から病気による「痛みや不安の除去」という独自の目的を持つことが考察された。さらに、Snoezelen Pool は、レジャーのみならず、教育やセラピーとしての側面もあり、今日、障害児者のみならず、すべての人々にとって癒しの空間とも呼べるオアシスのような存在であり、人間本来の人間性を回復する優れた一方法であることが考察された。

キーワード：スヌーズレン・プール、リラクゼーション、気持ちの共有、痛みや不安の除去、人間性の回復

1. はじめに

Snoezelen（スヌーズレン）は、1970年代にオランダで始められた障害児者への新しい関わり方の理念¹⁾である。スヌーズレンは、人間の五感を優しく刺激する視覚刺激や聴覚刺激、嗅覚刺激等を用いた多重感覚刺激環境（Multi-Sensory Environment）を創出して、リラクゼーションや興味を促し、障害のある人とともに充実した時間を過ごすという関わり方の理念とその場の提供といえる²⁾。

筆者はこれまで「英国における障害児者へのスヌーズレンの教育・福祉実践」について、いくつか論文で紹介するとともにその意義を考察してきた^{3) 4) 5)}。今日では、スヌーズレンの理念とその実践は、世界中の福祉施設や学校、病院等に広がり受け入れられている。

筆者は2007年9月にカナダにあるスヌーズレン施設を調査する機会を得た。本稿では、国際的に先進的なスヌーズレンの医療・福祉実践を行っている、トロント市にある Bloorview Kids Rehab を取り上げて、新たな Snoezelen の取り組みとして注目される“Snoezelen Pool”の実践を紹介するとともに、その今日的意義について考察する。なお、Snoezelen Pool に関する論文は、これまでわが国では報告されておらず、初めての試みとなる。

2. Bloorview Kids Rehab について

“Bloorview Kids Rehab”は、これまで“Bloorview MacMillan Children's Centre”として世界的に知られた

子どものリハビリテーション病院である。2006年2月に、施設をさらに充実させ、新たに“Bloorview Kids Rehab”としてスタートしたところである。

ここは、カナダで最も大きな子どものリハビリテーション病院である。毎年、600名を超える患者が入院しており、また外来患者としておよそ7,000名の子どもや若者をみている州の施設である。

これまで、オンタリオ州ばかりかカナダ中から、また世界中からおよそ52,000名の外来患者が訪れている。利用者は、身体障害や発達障害があり、リハビリテーション・ニーズのある幼児や子ども、若者たちである。

2002年には、トロント大学と提携して、カナダで最初の子どものリハビリテーション病院の教育機関に指定された。2004年に、Bloorview 子ども病院基金から寄付を受けて Bloorview 研究所を設立している。2006年には、病院内にアートの教室を開設している。

3. The Bloorview Snoezelen Pool について

Thomas, L (2007) によれば、国際的に見て、“Snoezeling in the Pool” の考え方の起り方は、1990年代中頃であるといわれる⁶⁾。水の要素を用いれば、知的障害や身体障害のある人々が、心配することなく楽しむことができ、リラックスしたり、身体的経験を広めたり、新たにすることができると考えられた。

Snoezelen Pool は、プールにさまざまなライトや音楽などの刺激を組み合わせ、医薬的に効果のある優しい刺激環境を創出する、温かいセラピー・プールである。それは安全で、温かであり、その安楽な雰囲気は、身体障害や発達障害のある子どもや利用者にとこれまでにな

* 三重大学教育学部特別支援教育講座

新たな経験を提供する。

北米で最初の Snoezelen Pool が、Bloorview Kids Rehab 内に 2002 年 10 月にオープンした。利用者に対するセラピーの質的向上等に貢献している。2004 年 4 月には、The Bloorview Snoezelen Pool program が、Parks and Recreation Ontario からオンタリオ州の「水中療育優秀賞」を授与されている。

The Bloorview Snoezelen Pool は、地域社会プログラムの一つであり、あらゆる年代の人々に使用されている。

一つ注意しなければならない点は、“Snoezelen Pool” の概念を “Aquatic therapy” (水中セラピー) の概念と混同しないことである。“Aquatic therapy” は、利用者の諸機能の向上を目指して、セラピストが利用者の身体的活動や運動・動作を行わせるものである。しかしながら、“Snoezelen Pool” は、水中で利用者と介護者が共に楽しい経験を共有し合うことを第一に重視するものである。

4. Snoezelen Pool 内の施設設備について

スヌーズレンに用いるさまざまな機材や機器がプールの内外に設置されている。それを以下に紹介する。

6 フィートのバブルチューブと 2 つの小さなバブルチューブ、光の色が変わる回転式のスポットライト、ムーンビーム・プロジェクター、音楽が流れると回転するスポットライトである。さらに、12 フィートもあるファイバー・グローがデッキからプールの中まで入っている (図 2・図 3・図 4・図 9・図 10)。

プールの底から空気を発泡させることで、水の泡から視覚的・触覚的な効果を生み、人の感覚活動を刺激する (図 12)。

光の色が変化するファイバー・グロー・ケーブルが、プール全体の周辺に配置され、目で見て視覚的なコントラストを提供している。

プールの水面下の壁面には、癒しの音楽が流れるスピーカーが内蔵されている。

リフト付きのオーバーヘッド・トラックシステムは、利用者を安全にプールの外からプールの希望する場所と深さのところへ移動させるのに用いられる (図 4)。

また、デッキからプールの中に入りやすいように、回転式の椅子が設置されている (図 3・図 5・図 6)。

プールの周り全体に、安全に手でつかみやすいように、くぼみが配置されている。

傾斜のあるスロープは、利用者が水中用の椅子 (図 8) に乗って水の中に入ったり出たりするのを容易にする (図 7)。

小さな子ども向けに、さまざまな玩具が用意されていて、水中に入れると光る玩具もあり興味をそそる (図 11・

図 13)。

プールの端に設置されている傾斜のあるステップは、利用者が水の中に入ったり出たりするのを容易にする。また、プールの横に、水中で使用する椅子 (図 8) や各種のライフジャケットが備えられている (図 14・図 15・図 16)。

5. Snoezelen Pool の目的

(1) 深いリラクゼーションを促すこと

Snoezelen Pool 内での活動は特に決められていない。利用者は、プール内のさまざまな機器や遊具等を用いて、自由に浮いたり、いろいろな体験を味わうことができる。たとえば、光の線を見たり、温かい水の中にちょっとだけ浸ってみたり、ライトの色が変わるのを見たりすることができる。

本人はもとより両親や介護者を含めて、すべての人々にレジャーとリラクゼーションの機会を提供してくれる。そして利用者は両親や介護者あるいは玩具と多くの関わりを持つことになる。

(2) 両親と子どもの情緒的な結び付きを促すこと

スヌーズレンは、子どもの情緒の発達に寄与することができる。重症心身障害児も介護者と気持ちを共有し合うことができる。介護者もまた情緒的な満足や落ちついた気分を体験することができる。

(3) 気分を高揚させること

温かい水は気分を高揚させることができる。それは体の表皮内の神経を刺激する。脳は α 波の時、脳からベータエンドルフィンという物質を脳内に放出することで、人を楽しい気持ちにしたり、人の感覚を和らげる働きをする。そして脳の休息とリフレッシュをもたらすことができる⁷⁾。

(4) 痛みや不安の除去

熱、水圧、そして水中の環境は、人の痛みの感覚器官に影響を及ぼす。人の体が温かい水の中に浸ると、しだいに体の内外が同じような温度になる。水中に入ることと温かい水の使用は、重力の效果に反する水圧を創り出す。そうした浮力は、利用者の体をよりスムーズに動きやすくする。また穏やかな感覚刺激は、人の心の不安や興奮状態を鎮めることができる。

(5) スキルの発達

スヌーズレンの各種機器の利用は、しばしば利用者のスキルの発達や学習を促進させる。たとえば、コミュニケーション・スキルがあげられる。自らの意思でプロジェクターの映像やバブルチューブを自分の好きな色に設定することが可能である。また興味のある玩具を触ることで玩具の操作能力を高めたり、粗大な運動・動作を引き出すこともできる。

6. Snoezelen Poolの利用者

基本的に、地域のコミュニティに在住する障害のあるすべての年代の人々が Snoezelen Pool を利用することができる。費用は、1セッション1利用者につき10カナダドル（約1,000円）である。両親や介護者は無料である。

以下は、2006年4月～2007年5月までの Snoezelen Pool 利用者の統計である。

1週間ないし2週間に1回、決まってくる利用者は64名であった。年齢は、20～50歳までが58%、33歳以下が42%であった。また障害別では、脳性まひのある発達障害、感覚統合障害が64%、自閉症が20%、視覚／聴覚障害が16%であった。

また、13歳以下の27名の利用者中、20名が Bloorview の外来患者であった。その内訳は、発達障害が16名（60%）、自閉症が10名（37%）、視覚／聴覚障害が1名（3%）であった。

さらに、20歳から50歳までの37名の利用者は、すべてコミュニティの病院患者であった。その内訳は、発達障害が24名（65%）、視覚／聴覚障害が10名（27%）、自閉症が3名（8%）であった。

このように、発達障害を中心に、さまざまな年代の患者が Snoezelen Pool を利用している。

7. Snoezelen Pool 使用上の諸注意

1対1で利用者を支援できる体制をつくる必要がある。1セッションは45分間で、最大5名の利用者が使用できる。監視員および訓練を積んだスタッフが常駐している。

介護者は、水中で自由に動けなければならない。スタッフは、プールを使用するすべての人々が安全に気持ちよく過ごせるように監督しなければならない。

“Ontario Life Saving Society” は、以下の注意事項を掲げている。

- ① 移動等のため、最小限の照明を付けていること。
- ② プールやデッキにいる利用者等の人数を制限すること。
- ③ 1対1による利用者の支援体制の確保。
- ④ 水中ではライフジャケットを着用させること。
- ⑤ 標準的な緊急時の対応法の用意がされていること。
- ⑥ 水中に人が残っている限り、オーバーヘッド・ライトを付けておくこと。
- ⑦ セッション終了5分前に、口頭で終了の合図をすること。
- ⑧ スタッフの感受性とコミュニケーション・スキルが特に大切。
- ⑨ プールを正しく使用するためには、スタッフの熟

練が必要。

- ⑩ スタッフは、プールの設備・用具を準備し、プールの内外にいる利用者の様子をモニターして、介護者や両親にその様子を知らせること。

8. 考察

(1) 一般的な「水泳指導」や「水中ムーブメント」と「Snoezelen Pool」の違い

今日では、重度の障害児者が、水の持つ浮力の利用により、普段室内等でとれなかった姿勢の保持や運動・動作が可能になったり、心肺機能や循環機能の向上がみられるという点から、水を利用した活動は一般的に有効であると考えられている。

小学校における水泳指導の中の「プール遊び・水泳」では、水に浮いたり、沈んだり、泳いだりして移動することを楽しむことがまずねらいとされる⁹⁾。

一方、プールの中で身体を動かすことを通して、さまざまな身体諸機能を高め、子どもの全面的な発達を促すことを目的とした、いわゆる「水中ムーブメント」⁹⁾が知られている。この「水中ムーブメント」は、いかに水の持つ特性を有効に利用し、子どもの発達の援助を効果的に行うかという取り組みである。

Snoezelen Pool の取り組みは、前述した「水泳指導」や「水中ムーブメント」の考え方を一部包含するものであると考えられる。しかし決して同一のものではない。

「水泳指導」では、水遊びや泳ぐことを楽しむこと、また「水中ムーブメント」では、子どもの発達援助がそれぞれ目的とされる。一方 Snoezelen Pool は、活動を楽しみ、リラクゼーションを促したり、スキルの発達援助につながるという点では「水泳指導」や「水中ムーブメント」と共通しているが、異なる点は何よりも活動を楽しむことを通じて、「本人と介護者が気持ちを持ちを共有し合い」、さらに深いリラクゼーションの体験から「病気による痛みや不安の除去」が目的とされていることである。

(2) Snoezelen Pool の今日的意義

プールで30℃前後の水温があれば、水の触覚的な刺激は、情緒の安定と身体のリラクゼーションを促進させる⁹⁾といわれる。今日、温かい水を利用した Snoezelen Pool の取り組みは、発達援助や気持ちの共有（コミュニケーション・スキルの向上）という「教育的な側面」のみならず、活動そのものを楽しむという「レジャーとしての側面」や痛みや不安の除去という「セラピーとしての側面」があると考えられる。

この点に関して、姉崎（2007）はスヌーズレンを「教育」と「レジャー」と「セラピー」の各概念を統

合した概念として定義している¹⁰⁾。事実、スヌーズレンは、世界各国で、学校や福祉施設、病院、さらに個人の自宅等において幅広く活用されている。そしてスヌーズレンを利用する人々の目的に応じて、ある時は楽しむためのレジャーとして、ある時は治療を目的としたセラピーとして、またある時は発達の上を目指した教育活動の一環として実施されているのである¹¹⁾。

このように、多面的な側面を持つのがスヌーズレンの特徴であり、Snøezelen Pool もまた同様である。Snøezelen Pool は、前述したように、従来までの一般的な水泳指導や水中ムーブメントの指導だけでは得られない、さまざまな新たな感覚的な体験を提供してくれる。

特に、今日では、人々が職場や家庭、社会においてさまざまなストレスにさらされている現状がある。そのため心身ともに疲弊し、生きる上での本来の人間性を喪失している者も少なからずいるといえる。そうした現代人にとって、Snøezelen Pool は、「深いリラクゼーション」や「痛みや不安の除去」等に効果的であり、いわば「オアシス」のような存在であるといえる。この意味で、Snøezelen Pool は、障害児者のみならず、現代のすべての人々にとって、本来の人間性を回復する優れた一方法であるといえよう。ここに、Snøezelen Pool の今日的意義を見出すことができる。

(3) 今後の課題と展望

Snøezelen の取り組みは、これまで約 20 年間、一般的に室内に視覚刺激や聴覚刺激等のさまざまな Snøezelen 機器を設置して、室内で楽しむ活動であると考えられてきた。しかしながら、この Snøezelen Pool の取り組みは、これまでの考え方をさらに発展させて、水中においても、リラクゼーションや癒しの場として、より効果的に体験できることを示唆している。

今後、世界各国での Snøezelen Pool の実践からさまざまな知見がもたらされると考えられるが、国際的に見て、Snøezelen Pool の実践は、今まさに始まったばかりであり、今後の実践および研究の成果が期待される。

今後、わが国にも、スヌーズレンの効果や有効性が広く社会的に認知され、Snøezelen Pool が福祉施設や学校・病院等に設置され、障害児者や一般の人々の癒しなどの生活の質を高める、レジャーや教育、セラピーとして広く活用されることが期待される。

謝 辞

本研究の調査に快くご協力をいただいた Bloorview Kids Rehab の Snøezelen & Resource Centre Coordinator の Lorraine Thomas 氏に、心から御礼を申し上げます。

参考文献・サイト

- 1) Hulsegge, J. & Verheul, A. Snøezelen-another world-. ROMPA in the U.K. 1987: 9-14.
- 2) 姉崎 弘. 最重度重症児に対するスヌーズレン療育の可能性について. 日本重症心身障害学会誌, 31 (1), 115-119, 2006.
- 3) 姉崎 弘. 英国における障害児者へのスヌーズレンの福祉実践 — Worcester Snøezelen Center の取り組み —. 三重大学教育実践総合センター紀要 24, 121-126, 2004.
- 4) 姉崎 弘. 英国における障害児者へのスヌーズレンの福祉実践 (II) — Multi-Sensory Room の今日的意義 —. 三重大学教育実践総合センター紀要 25, 53-58, 2005.
- 5) 姉崎 弘. 英国の Special School における Snøezelen の教育実践に関する調査研究 — Snøezelen の概念をめぐって —. 三重大学教育学部研究紀要 58, 教育科学, 99-105, 2007.
- 6) Thomas, L. Snøezeling in the Pool: The next step. 5th International Snøezelen Symposium in Canada. ISNA Symposium Acts. 1-7, 2007.
- 7) http://www.h4.dion.ne.jp/~iyasi/iyasi_006.htm
ベータエンドルフィンは、神が与えた快楽物質
- 8) 田中 聡. プール遊び 松田恵示・山本俊彦 (編著) かかわりを大切にしたい小学校体育の 365 日 教育出版 2005, 64-67.
- 9) 永松裕希. 第 10 章 水中ムーブメントによるプログラム 小林芳文・上原則子 (編著) 講座重度重複障害児 (者) の感覚運動指導 1 基礎・応用編 コレール社, 222-236, 1992.
- 10) 前掲書 5) p. 101.
- 11) Mertens, K. Snøezelen-Eine Einführung in die Praxis-. Borgmann Publishing, Dortmund. 2003: 26-33.
- 12) Bloorview Kids Rehab. Snøezelen Pool. 2007

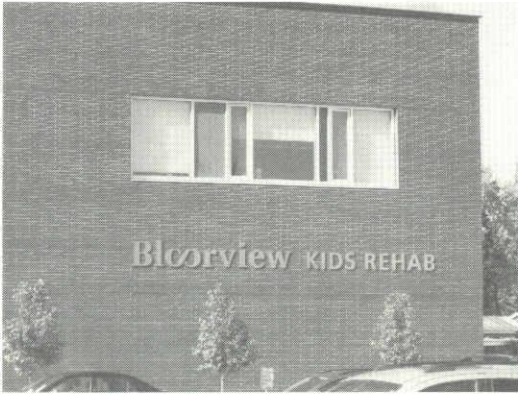


図1 Bloorview Kids Rehabの建物

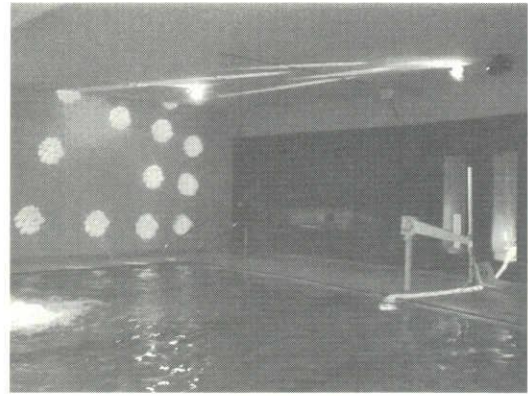


図2 スノーズレン・プールの外観

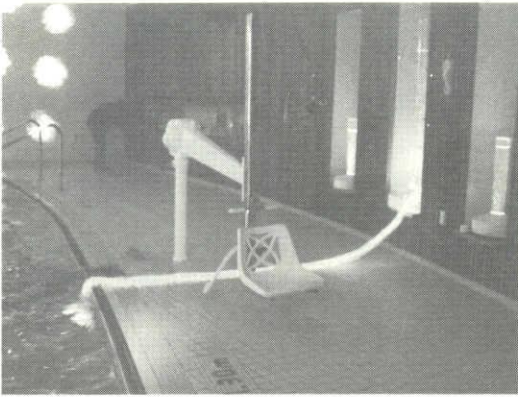


図3 ファイバー・グローと水中サウンド

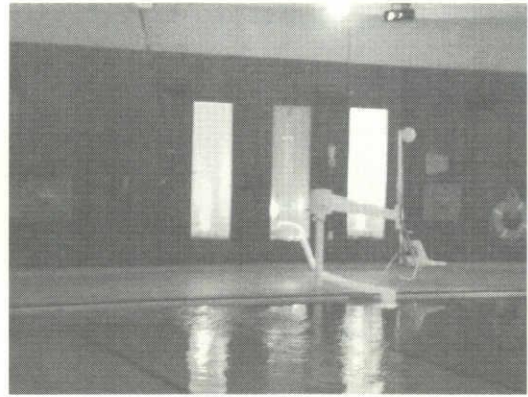


図4 3本のバブルチューブ



図5 ファイバー・グローと回転椅子



図6 照明を付けた時の回転椅子



図7 水中のスロープ(右側)

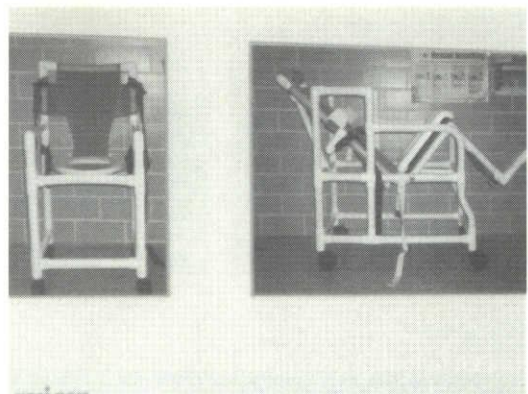


図8 水中用の椅子

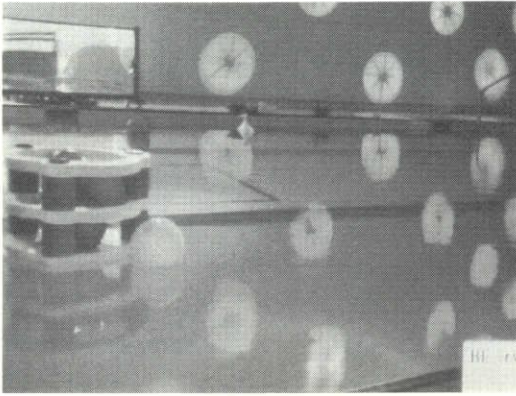


図9 プロジェクターを映写したプール

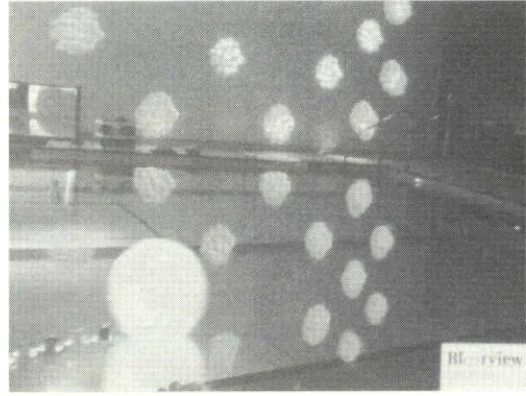


図10 プロジェクターを映写したプールと遊具（左側）



図11 光る遊具をプールに浮かせて

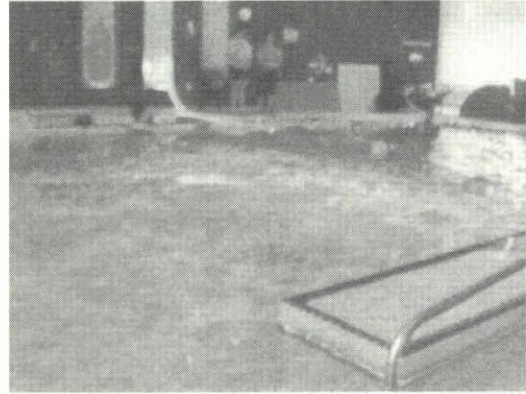


図12 プールの底から水泡が出ている

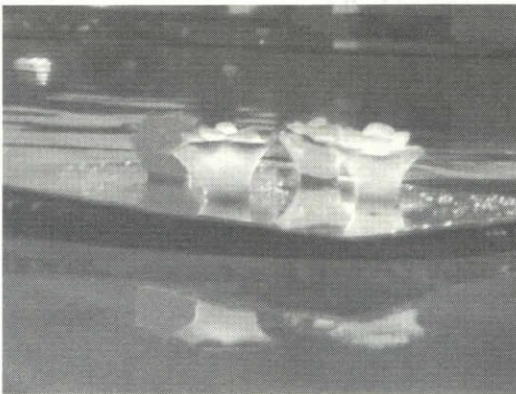


図13 ビート板に光り物を載せて

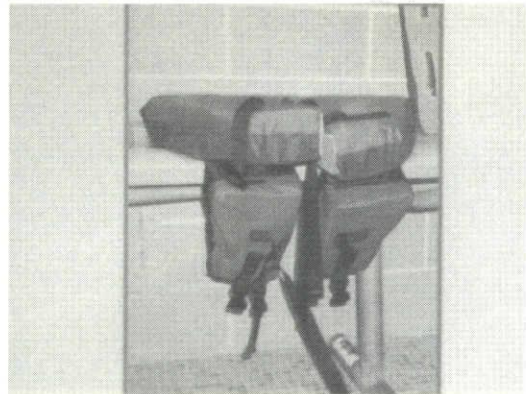


図14 ライフジャケット

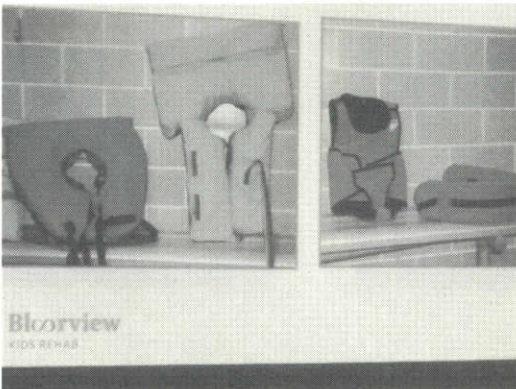


図15 各種のライフジャケット



図16 各種のライフジャケット